

# オアシス通信



## 「殻を破る」キャンプ

### 大嶋師招く



十月九日の礼拝で、ユース秋キャンプのメインゲストGK総主事の大嶋重徳師がご奉仕くださいました。「主の足元にすわって」というタイトルで、ルカ10章38節―42節からメッセージを語ってくださいました。

ユース秋キャンプは九、十

日に本教会を会場に開催しました。大嶋先生と裕香先生ご夫妻に「殻を破る」をテーマに語っていただきました。福音書からの分かりやすいメッセージ、また男女別集會を導いて下さり「性と結婚」についても深く学ぶよい機会となりました。三名の分科会ゲストの先生方（西川師、川内師、菅原師）を通しての学びも祝され、多くの決断のある収穫のキャンプとなりました。

キャンプには五十七人が参加し、九日夜はオープン集會として七十二名の参加がありました。

### 「主の足元にすわって」

大嶋重徳師

ベタニヤという村に、マルタ、マリヤ、ラザロの三人のきょうだいがいました。マルタは喜んでイエス様を迎え、もてなし始めました。妹はイエス様の足元で、みことばを聞いていました。一生懸命準備をしていたマルタはマリヤに対して腹を立て、ついにはそんなマリヤに何も言わないイエス様にまで苛立ちはじめました。イエス様は言われませんでした。「マルタ、マルタ。あなたはいろいろなことを心配して、気を使っています。しか

し、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです」

ここで言われている『一つ』は多くある中の一つではありません。それがなければ、すべてが無駄になってしまう『一つ』なのです。マルタは忙しくしている中で、もっとも大切な『一つ』を見失っていたのです。私たちも仕事場で、家庭で、教会でこのような状態になることがあるのではないのでしょうか？

マリヤはイエス様の思いを一番理解できていました。時

としてそんなマリヤの行動は非難されることが多かったと思います。

なぜ、マリヤはイエス様の思いを理解できたのでしょうか？ それは、主の足元に座り続けたからでした。大切なものはへりくだって、語られることばをまるごと自分のこととして、受け入れることなのです。

イエス様はマルタをも愛しておられました。マルタはここで、信仰生活の挫折を味わいますが、後に彼女は再びイエス様一行のおもてなしをしています。

### ★防災知識を学ぶ

十月十六日（日）の礼拝後、地震と火災の避難訓練を行い、非常階段から避難した後、野村兄から防災についての話を聞きました。建物火災では、放火や火遊びによるものが多く、家の周りに可燃物を置かない、整理整頓を心がける、施錠をすることを心がけるようにと教えていただきました。また、消火器は初期消火に効力があるので、いざという時に使えるよう模擬訓練も行われました。

### ★天の山で野外礼拝

十月三十日の第三礼拝は天の山で「野外礼拝」として行



いました。出席者の皆さんと共に賛美しメッセージに耳を傾け、礼拝後には、山の清掃を行いました。素晴らしい秋晴れにも恵まれ感謝なひと時でした。（益田泉）

### ★ティーンズ開催

十月二十三日にティーンズを開催しました。今回はアメリカ・フィラデルフィア名物の「フィリ・チーズステーキ・サンドイッチ」を楽しみました。初めて参加した二人も含め二十二名が参加。続けて来たいとの声も多くあり、クリスマスに繋がるよい機会となり感謝でした。（小山健）